

北九州芸術劇場及び響ホール 第2回芸術文化施設指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月4日（金） 9：30～12：00
- 2 場 所 北九州市役所本庁舎5階プレゼンルーム
- 3 出席者 （検討会構成員） 井上構成員、井端構成員、
小竹構成員、小林構成員、和田構成員
（事務局）都市ブランド創造局総務文化部文化芸術担当課長、
施設係長、担当職員

4 会議内容

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
- 指定管理者候補の選定基準、適否選択の注意事項について、事務局より説明。
- 申請団体から提案概要に関してプレゼンテーション及びヒアリングを実施。

（構 成 員） これまでの実績を踏まえた大変しっかりとした提案と思う。芸術文化の力を用いて人材育成を行う学芸事業では、地域課題の解決に繋がる取り組みをしているとのことだが、取り組みや成果、特徴的なものなどを具体的に教えてほしい。

（申請団体） 公共劇場として市民の文化振興の寄与がコンセプトだと思っており、文化芸術を通じた地域課題の解決には学芸事業の存在意義があると強く感じている。ダンスや演劇の手法を使うことで、ワークショップの中で自己肯定感や表現力の向上、コミュニケーション能力が向上するということが知られている。学校にアウトリーチをしており、例えば、人前での表現が苦手な子どもや思いを言語化するのが苦手な子どもが、ワークショップを通じて新しい価値観に出会うことで、自己肯定感を高めていったという事例も多くみられている。また、市民センターでもアウトリーチを行っており、例えば外国人市民の方で日本語が苦手な方が、ワークショップを通じて地域の方とコミュニケーションを取れるようになったという事例もある。

（申請団体） 提案書でも取り組み例を紹介しているが、さまざまな対象者に対して行っている。例えば、シニア向けのワークショップでは、劇場20周年記念に合わせて演者を公募したが、本当に生き生きと演技されており、公演後は劇場のファンとして公演を観に来ることもある。また、キタQふれあいアーティストプログラムでは、北九州で演劇をやっている方にも協力いただき、特別支援学級の子もたちとできることを一緒に体験する活動を行っている。地道な活動ではあるが、子どもたちの雰囲気の変化を実感でき、非常に重要なものだと感じている。

（構 成 員） このような事業は収入を生み出さないので予算的には厳しいと思うが、

本当に価値のあることだと思うし、劇場や音楽ホールに今求められている役割かと思う。

(構成員) 公募を市民に行った際、応募はあるのか。

(申請団体) 学校の場合、校長会を通じてアナウンスして各学校にチラシを配布している。チラシでは、活動により学級がこんな風になったという先生の声や参加した子どもたちからの感想を載せるなど関心を引く工夫をしている。応募する学校が多く、やむなく落選とする学校も発生している。できれば多くの学校に参加してもらいたいので、助成金や補助金をもらい継続していけたらと思っている。

(構成員) どの業種においても人員が不足しているが、応募団体は専門性の高い仕事をしており、人材の確保が一般の業種よりも難しくなっていくと思う。様々な取り組みは評価できる一方で、現在配置されている職員が離職しないための内部での魅力的な組織づくりや人材確保が課題としてあると思うが、従業員を働きやすくする取り組みなどについて教えてほしい。

(申請団体) 内部の研修などは当然やっていくが、やりがいをいかに感じてもらうかというところが大きいと思う。外郭団体なので元々は市派遣職員も多く、会計年度任用職員と一緒にやってきたが、どんどん市の職員が引き上げて、責任は重たくなっており、待遇が本当にマッチしているか悩んでいる。我々としては様々な事業を行い、財政的に余裕ができればそれを元に処遇改善を進めていきたいと思っているが、常にできるわけではないので、現状は職員のマインド力にすぎるしかない状況である。

(構成員) 公益事業や自主事業で、外部資金を獲得するなどして組織が強固になると、人材への還元などに取り組みやすくなると思うので頑張って取り組まれることを期待している。

(申請団体) 響ホールについては、今後高齢者の活用というのが大きいと思っており、シルバー人材センターなどと相談しながら、夜間などお願いできる時間帯に高齢者を活用して対応している。

(構成員) 財団が指定管理者として前向きな姿勢で取り組んでいるということは十分にこの提案書で伝わってきた。3つの理念をしっかりと根幹として、今後も取り組まれていただきたい。また、できるだけ豊富な経験や能力をぜひ生かした人材配置に今後も努めてほしい。さらに、財政基盤が豊かでないと良いものは生まれないので、助成金あるいは委託料を安定して維持してほしいと思う。それから、特に公演事業では非常に幅広い年齢層を対象にして自主事業を開催しており、プログラムにもかなり工夫をしている。90%という目標達成に向けて、今後も意欲的に頑張っていたきたい。また、ホームページ等を利用した相談への迅速な対応は、利用者にとって満足感の1つになると思うので続けていただきたい。また、観客の動員数などを十分考慮して運営に当たっていると思うが、経費節減に努めていただきながら稼働率を高めていただきたい。さらに、できるだけ芸術文化のニーズに対応した優れた文化に接する機会を1人でも多くの人に与えてもらうために、質の高いものをぜひ計画してもらいたい。個人情報保護にも努めていただければと思う。最後に、プログラムについては若年層から大人まで、

また、学校教育にも大変協力いただき、良いプログラムを組んでいると思うので、ぜひ続けていただきたい。

(構成員) 現場のスタッフの方の対応は大変親切で満足度が高い。また、小学生などに対するアウトリーチ事業について、実施後のフォローなどは行っているのか。また後に繋がるような取り組みは行っているのか。

(申請団体) 劇場について、アウトリーチ事業を行う際は必ず劇場スタッフとアーティストが学校に伺い、クラスごとに課題の聞き取りを行い、学級担任と問題意識の共有をしている。その共有の中で、担任の方からその後についての学級面でのフォローをしていただけたらと思っているが、実際劇場として各々の学校にその後のフォローなどはできていない。

(構成員) せっかく劇場・響ホールで授業をして何となく興味を持った子どもたちを、さらにもっと引き込むような施策があればいいと思う。

(申請団体) 個別対応は非常に難しいところはあるが、子どもの成長に合わせて劇場で開催されている公演を継続して案内できるようになるといいと思う。

(構成員) こちらからも提案や案内が必要と思うし、学校側と協力して文化芸術の方に子どもたちの目をもっと向けていけるような作戦を一緒に打てれば良いと思う。特に北九州はせっかく立派な施設がたくさんある。分野が違えども頑張っている方がたくさんいるので、芽をつぶさないよう何かできればと思う。また、地元劇団などとの連携は良いと思う。

(構成員) 貸館に関し、働き方が多様になり、若い世代の人たちも平日は芝居を観たり文化活動に参加したりすることが難しく、土日にかなり集中することが多いと思う。その場合、劇場や響ホールが行う自主事業の比率があまり高いと、市民が借りられないことになるが、自主事業と一般利用の比率などに関するルールなどはあるのか。

(申請団体) 北九州芸術劇場大ホールの場合、土日は劇場の主催事業もしくは市の主催事業は何回まで、それ以外については貸館で公募するということで、市とコミュニケーションをとってやっている。

(構成員) とても大切なところだと思うので、これからも配慮してもらいたい。また、想定外の災害が起きることもこれからは考えていかなければいけない。劇場は20年、響ホールも30年ということなので、補修予算確保も大変と思うが、市民の安全を考えいろいろ想定してもらいたい。

(申請団体) 改修工事に関しては、大規模なものは市と調整しながら、我々は状況をしっかりと報告して、計画的な改修工事をしてもらっている。また、防災対策について、リバーウォークが川や海が近いというところを想定して、防災の対策を計画している。例えば大雨が降って、取り残されている状況であっても、リバーウォークにいる方が逆に安全ということもあるため、しっかり状況を見ながら、お客様にアナウンスして対応できるような訓練をしている。

(構成員) 響ホールのお迎えバスは、どのように運用されているのか。

(申請団体) 自主事業の場合、ジャンボタクシー会社に運営委託しており、八幡駅から運行するよう対応している。また貸館の場合は、希望する主催者には財団が手配をして、経費の約半額を負担している。

(構成員) 提案書の地元劇団等の創造活動・広報支援というところで、創作におけ

る支援のあり方を整備することで、地域における創作活動の持続性を担保する、という記載があるが、具体的にどのような仕組みになっているか内容を教えていただきたい。また、劇場と響ホール両方で、施設管理と密接な連携を図る取り組みの中で、総合相談窓口の設置という項目があるが、内容を教えていただきたい。

(申請団体) 地元劇団の公演を提携公演と位置づけ、誘客・広報のお手伝いや当日の運営、フロント周りのお手伝いをしている。また、活動の場の確保が難しい場合は、芸術劇場の創造空間の中に稽古場があるので、そちらを時間貸しするなどの支援をしている。

(申請団体) 総合相談窓口は、令和3年12月に開設し、令和3年度が相談件数5件、4年度が20件、5年度が24件、6年度が18件と、順調に相談件数が増えている。相談内容については、令和6年度の内訳は、助成金を紹介して欲しいというものが5件、自らの芸術文化活動に助力して欲しいという内容が12件、芸術文化活動に使用する会場の紹介が1件の計18件となっている。また、相談者の内訳は、市民や地元企業11件、企画制作者1件、実演家や実演団体5件、その他1件となっている。

(構成員) 相談日とか相談時間とかいうのは決まっているのか。また、財団職員が対応しているのか。

(申請団体) 財団職員が電話での問い合わせや対面、メールで随時対応している。

(申請団体) 北九州市からの補助金を基に市内の団体の活動に対する支援を行っており、令和5年度は36件、令和6年度は20件採択している。なお、令和6年度は上限30万円で助成金を出して支援している。

○ 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自項目ごとの適否を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換。

(構成員) 提案書の通りにやってもらえれば何ら問題ないと思い、どの項目もすべて適正とした。基本構想、理念もしっかりおり、財政基盤も心配しなくていいと思っている。北九州の文化向上に努める柱になってもらいたい。

(構成員) 直近の決算報告書の数字などを見ると、財政状態としては問題ない。また、指定管理の水準を見ても、前期は収益事業と公益それぞれの部門ごとのトータルがマイナスだが、市に請求する指定管理料が効率的になされており、公益の団体としての存続の観点からも問題ないと判断した。

(構成員) すべての項目で適ということで評価をさせていただいた。これまで開設以来、管理運営をしてきたノウハウの実績も十分だと思う。それぞれの施設の特性を踏まえ、事業コンセプトも明確であり、これまでの取り組みを継承発展させながら、施設の設置目的に沿ってきちんと運営できると考えた。例えば響ホールは立地で少し不便な面があるが、弱みをカバーしながら利用者の目線に立った運営をされており、両施設とも利用者とのコミュニケーションをしっかりと取ることが高い満足度に繋がっていると思う。また、地元の団体との連携や次世代の子どもたちの育成などの取り組みをしっかりと続けてもらい、文化施設に期待されている社会的役割を果たしていくよう

期待する。また、職員の処遇の面で厳しい面があり、職員のやりがいにすぎているのが実態と思う。できる限り処遇の改善に努めてもらえたらと思う。

(構 成 員) すべて適正とした。昨年響ホールが 30 周年、劇場が 20 周年ということで昨年は財団が少し変わったように感じた。それをステップにして、地元の団体とうまく連携して、未来に繋がっていけるような努力をしていただきたい。また、給料額と照らし合わせても十分な対応をやっていただいていると感じた。自主事業などは助成金に頼っている部分が多いと思うので、助成金がなくてもやれるような体制、まずは土台づくりが必要と思う。満足度は 100%にはならないと思うが、不満とを感じる方へどのようなアプローチをしているのかを知りたい。

(構 成 員) すべて適正とした。財政状態はしっかりとしており安心した。芸術劇場や響ホールのよさは、演劇や音楽の専門性の高い事業が展開できることが他都市の会館との違いで、それを北九州市が2つ持っているというのは市民にとって大変誇りで、それを維持するのは結局人だと思う。財政的に一気に増やすことは難しいだろうが、スタッフは大変高いプロ意識を持ってやっており、それが高い満足度に繋がっていると思うので、その水準を維持するようこれからも大切にしてもらいたいと思う。また、文化事業は収支でプラスが出る事業はあまりないので、どうしても助成金の活用が必要になってくると思う。文化庁も助成金を減らす傾向があるが、心の成長には文化芸術は必要なものなので、地域で展開していくためにも文化庁に予算を減らさないように伝えてほしい。文化がいかに大切かということを文化庁にも発信してもらい、いろいろなことをやっているとならば、全国に対して発信できるような施設になってもらえば、さらに北九州にとっての発展に繋がると思うので、継続して頑張ってもらいたい。

○ 意見交換を行った後、各構成員の審査結果を取りまとめ、検討会を終了した。